

2023年12月17日（日） 忘年登山 陣馬山（855m）

令和5年の忘年登山として、富士山が良く望める陣馬山に登ってきました。

陣馬山には2017年に少人数の3人で登っていますが、クマさん会を挙げて11人で登ったのは2014年です。実に10年前のことになりました。今回は久しぶりに8名の大人で登山を楽しみました。

和田登山口から入山して陣馬高原下を下る、歩行時間3時間ほどのコースです。下山後は、高尾山温泉（極楽湯）で汗を流し、八王子駅隣接のそば酒房「凜や」で打ち上げをしました。思いもよらぬハプニングもありましたので、レポートの中でご紹介します。

参加者は、熊本さん、能勢さん、布目さん、池戸さん、安部さん、高橋文さん、根岸さん、吉松の8名です。

レポート；吉松



8時30分、JR 藤野駅に集合

9時6分発 和田停留所行のバス（神奈川中央交通バス）に乗車するため、早速駅前のバス停に並んだ。

先頭の我々に続いて見る間に乗客が増えて、やがて長蛇の列となった。

結局臨時便が出て、2台連なって出発

小野寺さんも参加予定であったが、朝方に急遽不参加とのメールが入ってきた。37度に近い微熱が出たため、翌日以降の仕事に差し障りが出たはずとのことであった。楽しみにしていたのに残念至極！！

安部さんは昨年の忘年登山以来、1年振りの参加である。久しぶりの登山なので、途中できついと判断したら早めに下山するとのことであった。

熊本さんは、一寸右ひざに痛みがあるらしい。



バスは定刻の9時21分に和田停留所に到着



停留所脇で各自身体をほぐし、
9時30分に出発。



登山口まで、暫し一般道を歩く。

暖かかった今年の冬もいよいよ寒波到来で、道すがらの家々の庭に花をほとんど見かけることが出来なかった。
僅かにさざんか、南天、柚子の実を目にすることが出来た。



さざんか



南天



柚子の実



最初に現れた「陣馬山登山道」の石の標識は見送った。
熊本さんによれば、一般道のもう少し上の方に別の登山道があるとのこと。

陣馬山への登り口は、結構沢山あるようだ。



石の登山道標識の場所から歩くこと5, 6分で、今度は「藤野駅 和田峠」と書かれた木の標識が現れた。
我々は、ここから入山することにした。

「陣馬山登山口」の看板と、「クマ出没注意」と書かれた掲示物の前で集合写真



9時50分出発

登山道は歩きやすく、傾斜も緩やかであった。やがて右手の木々の間から富士山が見えてきた。





9時17分

小休止

布目さんから柿の差し入れを頂いた。
甘くて果汁たっぷりの柿であった。



一息ついたところで出発

熊本さんを先頭に少々列は長くなったが、
他の登山者も少なく、ゆっくりと今年最後の
登山を楽しんだ。

落ち葉、枯れ草ばかりの登山道で、マムシグ
サの赤が目を引きいた。



日差しが強くなってきて、体もしっかり温まってきた。風もほとんどない。



10時50分

陣馬山まで0.7Km と書かれた標識辺り
で2回目の給水タイム



ここから先の辺りから、少し急登に差し掛
かる。

急登を登る前に、木漏れ日を身体に受けな
がら体を休めた。

10時55分、山頂に向かって登山開始
少し行くと、急な登りと、階段が続いた。



階段を上りきると、小屋とテラスが現れた。
先に登って休んでいる人の姿も見え始めた。



11時15分

特徴のある「白馬の像」が建つ山頂に到着

「白馬の像」はその名の通り、かつては本当に真っ白だったが、少々くすんでしまったようだ。
モルタルが長年の風雪ではげ落ちてしまったらしい。
山頂では富士山が良く見えた。



富士山は、かかっていた雲が風で飛んで、全容が良く見えた。
気温の暖かい日が続いていたので、例年よりは雪は少ないようだ。

クマさん会の忘年登山に相応しい雄姿を望むことが出来た。

富士山をバックに記念写真



8人が座れるテーブルを確保して昼食



まずは、
能勢さん持参の赤ワインで乾杯

布目さん手作りの総菜がテーブルに広げられた。こちらもいつもお世話になっている。
出発前日に仕込んで、持ってきてくださるのだそうだ。

今回は、塩せんべいにつけて食べる「こしあん」と「大豆の甘煮」まで準備して頂いた。
おいしかったですね～。絶品でしたね～。



集合写真を「白馬の像」前でもう一枚



12時
下山開始

計画通りの出発時刻であった。



登りと比べると、大分歩きにくい。
露出した木の根が足の運びを遮る。
また、積もった落ち葉も厄介だ。

【そして思わぬハプニング】

殿（しんがり）の吉松の目の前を歩いていた安部さんが、急にふらつき、右手の急斜面方向に滑落してしまった。木の根を避けながら右に寄ったところで、落ち葉の上に置いた右足が踏ん張れず、そのまま滑って落ちた。

全く一瞬のことであった。斜面は急で簡単には制動のできない状態であったが、幸いに杉の木の伐採木が木々に渡しかけるように横置きに並んでいて、そこで止まることが出来た。5mくらいは落ちたであろうか？

先に歩いていた6名にストップの大声をかけ、安部さん救助の応援を頼んだ。池戸さん、文さん、根岸さんがすぐに応援に戻ってきてくれた。

安部さんは、頭や手足をぶつけておらず、幸運にも無傷であった。

まずザックを外してもらい、ゆっくり立ち上がって、池戸さんに引かれながら登山道に戻ることが出来た。



根岸さんがザックを持ち、池戸さんが手を引いて安部さんを登山道に引き戻した。

文さんは、滑落途中に引っかかっていた安部さんの帽子を拾いあげた。

不幸中の幸いというべきか？

安部さんの身体へのダメージは無く、どこもぶつけていない。

杉林でなくて、岩場だったりすれば、かなり下まで滑り落ちた可能性が高く、無傷ではおれなかつただろう。



12時30分

安部さんの無傷を確認してから、下山開始

ザックは池戸さんが担いでくれた。

いざとなれば、根性がすごい！！



安部さんは、その後快調に下山できた。

(写真先頭の青い服は、快調な安部さん)



13時

陣馬高原下バス停を指し示す標識が現れた。ここまでくれば安心だ。



あとは自動車を下り、少し急げばバス停まで20分ほどで着く。



予定通り13時32分発高尾駅北口行きのバスに乗り込むことが出来た。

高尾駅には14時8分到着

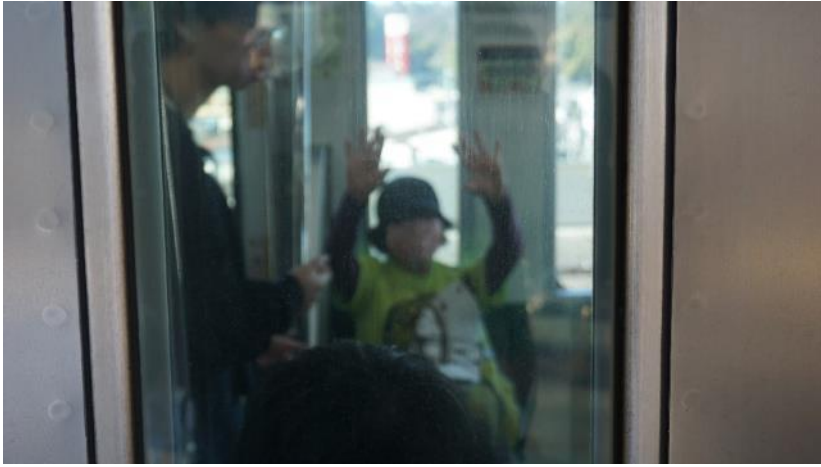
所用がある文さんとはここで別れた。また、帰宅まで時間がかかる布目さんも、温泉に入らず帰宅の途についた。



文さんはJRで帰宅

布目さんは京王線で帰宅

残り6人は京王線で高尾山口駅へ向かい、高尾山温泉「極楽湯」で汗を流すことにした。



手を振る布目さん

京王線を利用して帰宅

残り6人（熊本、能勢、池戸、安部、根岸、吉松）は、京王線高尾山口駅前の高尾山温泉「極楽湯」を目指した。



高尾山温泉「極楽湯」の全貌

駅には高尾山からの下山者も多く、温泉の込み具合に一抹の不安が！！

案の定、極楽湯は脱衣場から湯船までイモ洗い状態



イモ洗いの芋よりも酷かったかもしれない。

間違っても土日、休日には来るものではないと、大反省！！

【今度は 極楽湯でひと騒動】

高尾山温泉入場時に、安部さんが慌て始めた。「お金やカード類を入れていた財布が無い」
池戸さんにお金を借りて温泉に入ったものの、ザックや衣類のどこをどう探しても財布が見当たらない。

ご本人は、滑落時に胸ポケットから落ちたのではないかと疑うものの、はっきりしない。
熊本さんや池戸さんから、そもそも自宅に置いたままだったのではないかとアドバイスがあるも、ご本人ははっきりしない。

八王子駅で途中下車して、馴染みのそば酒房「凜や」で乾杯する予定だったが、安部さんはパスするとのことだった。財布を探す方が先だと、帰宅を急ぐことになった。



イモ洗い温泉から、ほうほうの体で飛び出して、高尾山口駅で登りの電車を待つ。

安部さんはそのまま帰宅の途についた。残り五人は、八王子駅へ向かった。

忘年登山の締めは、馴染みとなったそば酒房「凜や」で行った。

定席がうまいこと空いていて、早速生ビールで乾杯！！

まず、メニューに載っている酒の肴はほとんど注文。ビールのあとは、日本酒をせっせと注文。

最後は、美味しい「へぎ蕎麦」を食べて大いに満足。



八王子そば酒房「凜や」の、クマさん会定席一枚板のテーブルが殊の外お気に入り



5人はほろ酔い加減になって、帰宅の途についた。今回も楽しい忘年登山となりました。

【さて最後に、今年にとって置き的美談】

安部さんは帰宅後、ついに自宅でも財布が見つからずガックリ。

探すのは諦めてカード類の無効手続きを行うとともに、運転免許証は再発行を申請したそうです。

ところが、密かに、しつこく、諦めない人がここにいたのです。安部さんの大の友人池戸さんです。

池戸さんは、30デイズにアップされている安部さんの写真を丹念に見て、安部さんの胸のポケットが膨らんでいるのが確認できると、やはり滑落時に胸ポケットから財布を落としたに違いないと強く確信したのだそうです。

そして果敢にも、忘年登山三日後に再び単身で陣馬山へ向かい、安部さんの財布を探しに出かけたのです。

滑落した場所に到着すると、自分が滑落しないようにロープで身体を結び、木に括り付けて、どこにあるとも知れぬ財布を捜索し始めました。



安部さんが滑落した辺りの木に、自分自身をロープで結び付けて搜索開始



搜索活動は溜っている落ち葉を払いのけながらの大仕事

活動は1時間を超えて行ったとのこと。

そしてついに、落ち葉の中に財布を見つけ出しました。

すごいですね。恐るべき執念ですね。

この話は21日木曜日、ことし最後のクマさんの日の集い（於：五反田 古里）でお聞きしました。

古里は、皆さんの喝采で割れんばかりの感動の嵐に包まれました。